

事務事業計画書兼評価表(A表)

1 事務事業に関する基本情報				平成	28	年度
事業番号	419	事業名	公民館講座事業			
担当課	中央公民館	担当係				
総合計画に最も関連ある施策	施策	6	こころ豊かな人づくり	連絡先	0858-72-3113	
	施策体系	2	社会教育の充実	事業区分	□新規 ■継続	
	主な事業	高齢者大学、パソコン教室、男の料理教室、スキー教室等				
予算区分	款	9	教育費	事業実施主体	■八頭町 □その他	
	項	4	社会教育費			
	目	2	公民館費	計画期間	開始	—
	事業	419	公民館講座事業		終了	—

2 事務事業の概要

事業の対象	誰(何)に対してこの事業を行うのか記載 町内に住む子どもから高齢者までの方					
事業の目的	誰(何)をどうするためにこの事業を行うのか記載 公民館を拠点にした学習の機会を設け、生きがいづくりを推進する。					
事業の内容	事業の規模や業務量などを具体的に記載 高齢者大学：年20回実施、パソコン教室：年8回実施、男の料理教室：年6回実施、スキー教室：年1回					
事業の手段	どういう方法、手順で事業を進めるのか、具体的に記載 町民を対象に各種教室の参加者を募集し、中央公民館を中心に事業を開催するとともに、地区公民館も活用して事業を実施する。					
事業の成果到達点	どんな成果を得たいのか、または、何がどうなれば達成か、具体的に記載 総合計画の基本目標である「豊かな心育み文化の薫るまちづくり」で目指す社会教育の充実を図るため、質の高い生涯学習、文化芸術、生涯スポーツを実施し、町民のふれあいづくり、生きがい作り、地域コミュニティーの推進が図られること。					
根拠法令等	1	1. 法令(義務) 2. 法令(任意) 3. 条例 4. 規則・要綱等 5. なし			法令等名→	社会教育法

3 活動指標、成果指標

活動指標		単位	事業の手段を図るものさし			
	A	回	高齢者大学 開催回数			
	B	回	パソコン講座 開催回数			
	C	回	男の料理教室 開催回数			
	D	回	スキー教室 開催回数			
成果指標		単位	事業の成果、到達点を図るものさし			
	A	人	高齢者大学 参加者数			
	B	人	パソコン講座 参加者数			
	C	人	男の料理教室 参加者数			
	D	人	スキー教室 参加者数			

4 コスト

区分		単位	25年度	26年度	27年度		28年度		29年度
			実績	実績	目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	A	回	17	18	18	19	20	20	20
	B	回	12	12	12	8	8	8	8
	C	回	8	6	6	6	6	6	6
	D	回	1	1	1	1	1	0	1
成果指標	A	人	1,231	1,186	1,544	1,150	1,300	1,068	1,300
	B	人	112	108	180	131	120	88	120
	C	人	74	66	50	86	90	73	90
	D	人	60	50	50	52	50	0	50
トータルコスト		千円	17,808	17,076	17,502	17,142	17,483	16,988	17,490
担当職員数		人	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
職員人件費		千円	16,800	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000
事業費		千円	1,008	1,076	1,502	1,142	1,483	988	1,490
事業費財源内訳	国庫支出金(交付金・補助金)	千円							
	県支出金(交付金・補助金)	千円							
	地方債(借入金)	千円							
	事業収入(使用料・参加費等)	千円							
	一般財源(単町費)	千円	1,008	1,076	1,502	1,142	1,483	988	1,490

事務事業計画書兼評価表(B表)

5 実施活動内容・成果(到達点)

平成 28 年度

実施活動内容・成果(到達点)	実施活動内容(具体的に) 高齢者大学:年20回実施・参加者1,068人、パソコン教室:年8回実施・参加者88人、男の料理教室:年6回実施・参加者73人、スキー教室:年1回実施(ただし、大雪警報発令のため中止) 成果(具体的に) 総合計画の基本目標である「こころ豊かな人づくり」で目指す社会教育の充実のため、生涯学習の拠点として、質の高い生涯学習、文化芸術、生涯スポーツを実施し町民のふれあいづくり、生きがいつくり、地域のコミュニティの推進が図られた。
----------------	--

6 事務事業の評価

評価項目	評価点	点数	チェックポイント	判断理由・評価コメント(具体的に記入のこと)
必要性 (町民ニーズ)	13	20	①必要性が高い	地域における身近な学習・交流の場として多様な学級・講座を展開し、生活文化の振興、豊かな人づくり、仲間づくりを推進することが必要である。
		13	②どちらかと言えば必要性がある	
		7	③必要性が低い	
		0	④必要性がない	
妥当性 (町が行わなければならないか)	13	20	①町が行わないといけない	豊かで充実した人生を送るため、社会教育、生涯学習の機会を公民館が提供し、地域の振興や活性化を促進して必要である。
		13	②どちらかと言えば町が実施	
		7	③妥当性が低い	
		0	④妥当性がない	
効率性 (コスト削減の余地は無いか)	13	20	①効率的である	高齢者大学において、3地域合同で実施可能なものについては、合同で実施する。各種講座等において講師依頼する際に、地元の人材を活用することで、コスト削減に努めている。
		13	②どちらかと言えば効率的である	
		7	③どちらかと言えば非効率的である	
		0	④非効率的である	
緊急性 (他事業に優先し実施する必要があるか)	13	20	①緊急性が高い	地域住民の要望が多様化・高度化している中において、地域内における繋がりが弱くなってきており、公民館を拠点とした生涯学習に取り組んでいくことにより、住民の心豊かな生活を営むことに寄与することができる。
		13	②比較的緊急性がある	
		7	③緊急性が低い	
		0	④緊急性がない	
成果 (目的の達成状況)	13	20	①成果が上がっている	住民の学習ニーズを的確に捉えた事業を実施することで、学習の意欲を高めるとともに、相互の繋がり、地域の活性化に寄与している。
		13	②どちらかと言えば上がっている	
		7	③どちらかと言えば上がっていない	
		0	④成果が上がっていない	

一次評価	事業の方向性	点数	評価点合計	判定に至った理由
2	1、拡充する	80点以上	65	町民の身近な学習・交流の場としての公民館の役割を果たすため、生涯学習の提供に取り組んだ。参加者が固定化しつつあり、新しい参加者が増えるような事業を取り入れていく必要がある。
	2、現状維持	60～79点		
	3、改善・効率化し継続	50～59点	評価点による判定	
	4、見直しの上縮小する	40～49点	2	
	5、終期設定し終了	30～39点		
	6、休止	20～29点		
	7、廃止	19点以下		

二次評価	事業の方向性	判定説明・意見
3	1、拡充する	公民館は、生涯学習の拠点としての役割を果たすものであり、高齢者大学や様々な世代・分野に渡る各種講座・教室等が実施されている。パソコン教室や男の料理教室などの事業については、社会情勢や国民意識の変化等を背景とした住民ニーズの変化を的確に捉え、近年、参加者の増加に繋げることができていたところではあるが、成果指標を見るに平成28年度には参加者数が減少に転じてしまっており、住民ニーズの変化の速さがうかがい知れるところである。各事業における参加者の固定化が課題として挙げられているが、事業のマンネリ化を解消するとともに、町民ニーズの変化等にも即応した事業を実施していくため、他の自治体の取組を参考にするなど既存事業の見直しや新たな事業の発掘について積極的に情報収集や検討を行い、より効果的な事業展開に努めていただきたい。また、平成28年に、公民館の在り方に関する基本的な方針が示されたところであるが、地域福祉の取組として行っている各地区のまちづくり委員会の活動との連携・調整等を含め、今後の生涯学習の推進にあたっては、一体的かつ効率的な公民館事業の運営に努められたい。
	2、現状維持	
	3、改善・効率化し継続	
	4、見直しの上縮小する	
	5、終期設定し終了	
	6、休止	
	7、廃止	

7 課題及び今後の方向性

課題	事業活動に当たり、一番の問題と捉えていること。重点的に手当てする事柄、改善点、工夫したい箇所 住民のニーズを的確にとらえた各種生涯学習・講座を実施し、多くの方に参加していただいたが、参加者が固定化している傾向にある。
今後の方向性	上記課題を解決していくため、次年度どんな活動を展開していくのか 地域住民の身近な社会教育の場として住民のニーズを的確に把握した事業を展開できるよう、要望に応えられるよう住民の意見の把握を進めていく。